セッション1

「2015年まで残り5年の課題―何を優先すべきか」

［モデレーター］

プラサード・セートンガ	スリランカ　ペラデニヤ大学教育学部　学部長

［パネリスト］

チャールズ・アヘト-ツェガ	ガーナ教育省　計画・財務・モニタリング評価局　局長
江口　秀夫	国際協力機構人間開発部基礎教育グループ　次長
デヴィヤ・ジンダル-スネイプ	スコットランド　ダンディー大学教育・ソーシャルワーク・コミュニティ教育開発部　上級講師
キャロライン・ロドリゲス	東南アジア教育大臣機構　教育革新技術センター知識管理部部長

［モデレーター］

プラサード・セートンガ　現在、ペラデニヤ大学教育学部の学部長を務める。日本の京都教育大学で教育学修士を取得後、1998 年に筑波大学にて教育学の博士号を得た。1999 年にペラデニヤ大学の上級講師になり、以来スリランカの大学および大学院の両方において教員開発に携わる。「万人のため の教育 - スリランカにおける 10 年間の調査報告書 2008 年」の主な執筆者の一人である。また、スリランカ教育省によって開始されたインクルーシブ教育における国家政策フレームワーク作業部会の一員であり、スリランカ - 日本プロジェクト「インクルーシブ教育を志向した教員養成の主任研究員を務める。関心を寄せる研究分野は学校運営、比較教育、教員開発、インクルーシブ教育、二ヶ国語教育である。

［パネリスト］

チャールズ・アヘト - ツェガ　ガーナ教育省における教育戦略計画の主導メンバーで、評価、計画立案、予算立案の専門家。幾つもの学校で教師や校長として経 験を積んだ後、ロンドンの海外ボランタリーサービス (VSO)、アクラの統合社会開発センター、ガーナ教育サービス、国連ボランティア計画、ガーナ UNICEF のアクラ事務所で指導者、プログラム開発者、プログラム管理者を務めた。目標は教育関連の計画、財務および戦略的計画の立案に関する知識をガーナに普及させることである。

江口　秀夫　1959 年 6 月生まれ、東北大学教育学部卒 (1983 年)、東北大学大学院修士 (教育学) (1986 年)。1986 年 4 月国際協力事業団（現　独立行政法人国際協力機構）に入る。教育、保健分野での業務に従事し、JICA 英国事務所次長、ジンバブエ事務所長を経験。2009 年 4 月より、人間開発部次長兼基礎教育グループ長。

デヴィア・ジンダル - スネイプ　ダンディー大学教育・福祉・地域社会教育学部上級講師。筑波大学博士。インドで大学および修士課程の終了後、数年間学校や大学で教鞭を取った。その後、日本の筑波大学で博士号を取得。関心を寄せる研究分野はインクルージョンと教育の変遷。研究の多くは特別支援教育を要する子供や若年層（特に視覚障害、自閉症、学習障害、情緒的・行動的な障害を持つ）に関わる。また、主に米国、ナイジェリア、ニュージーランド、フィンランド、デンマーク、インド、日本の研究者との国際的な共同研究や共同出版を行っている。インド、マレーシア、タイ、中国、英国、カナダ、米国、マルタ、ギリシャ、オマーン、エリトリアからの学生の指導した経験あり。多くの国際的な出版を行っている。

キャロライン・ロドリゲス　東南アジア教育大臣機構　教育革新技術センター　知識管理部部長。情報技術を基にする教育プログラムや研究に対して情報、マルチメディア、システム管理および教材開発サービスを提供するチームを率いている。フィリピン大学マス・コミュニケーション学部の研究員および講師を務めた。またフィリピン社会開発経済人協会および国家総合地域開発庁ではコミュニケーションオフィサーも務め、情報通信プログラムの開発・実施における多くの経験を積んだ。フィリピン大学で技術管理の修士号とコミュニケーション・リサーチの文学士号を取得した。